

授業科目	医療安全		
単位・時間数	1単位 15時間	開講時期	2学年 後期
1. 科目のねらい・目標			
1. 医療事故に関する基礎的知識や医療安全への取り組みについて学び、理解を深める。 2. 医療事故防止における看護師の責務および法的責任について理解する。 3. 臨床に潜む危険要因を知り、誰でも事故の当事者になりうることに気づく。 4. 事故事例を分析し事故防止対策を考え、学びを共有する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1	2	医療事故の現状と臨床に潜む危険要因	1. 医療事故の構造と事故例 2. ハインリッヒの法則・スイスチーズモデル 3. 医療事故につながる危険要因 4. 医療事故防止に関する看護師の責務
2	2	ヒューマンエラーと事故発生のメカニズム	1. ヒューマンエラーと脳の情報処理過程 2. エラーにつながる人間の特性と環境要因 3. 医療用ヒューマンファクター工学モデル【P-mSHELLモデル】
3	2	医療安全への取り組み	1. 医療安全の基礎となる考え方 2. 医療安全への取り組み 3. 医療事故発生時の対応 4. インシデントレポート 5. 医療事故の分析
4 5 6 7	8	事故事例の分析と事故防止対策	1. 医療事故事例の分析と事故防止対策 1) 転倒事故の危険予測および危険回避【個人学習】 2) 分析ツールに沿った注射・ドレーン事故事例分析【個人・グループ学習】 ・P-mSHELL分析 ・時系列分析 3) 分析結果に基づいた対策 2. グループ発表・学びの共有 3. 事故防止対策（講義）
8	1	単位認定試験	1. 単位認定試験
3. 教科書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院		
4. 参考書	各自が必要な文献を活用する		
5. 成績評価方法	グループ学習提出物、課題（個人学習）、筆記試験		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	看護を臨床で提供するにあたって不可欠な“安全”の視点から、看護の対象および自分自身を守るために意識、行動しなければならない事柄を学びます。		

授業科目	看護管理		
単位・時間数	1単位 15時間	開講時期	3学年 全期
1. 科目のねらい・目標			
1. 看護の経済性・効率性について考え、看護管理について基礎的な理解を深める。 2. リスクマネジメントについて知り、患者の安全を守るための取り組みの実際について学ぶ。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項 目	内 容
1 2 6	11	看護管理	1. 看護の動向と政策 2. 看護管理過程 3. 看護管理のスキル 4. 看護の質保証 5. 看護と経営 6. 医療・看護必要度
7	2	医療安全への対応	1. リスクマネジメント 2. 県立中央病院での取り組み
8	2	単位認定試験	1. 学習のまとめ 2. 単位認定試験
3. 教科書	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔2〕医療安全 医学書院		
4. 参考書			
5. 成績評価方法	筆記試験		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	臨床での看護にかかるマネジメントについて学びましょう。		

授業科目	災害看護／国際協力		
単位・時間数	1単位 15時間	開講時期	3学年 後期
1. 科目のねらい・目標			
1. 災害・災害看護に関する基礎的知識・技術を理解、習得する。 2. 赤十字活動の歴史や海外における看護活動について理解する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項 目	内 容
1 2 3	6	災害・災害看護の基礎	1. 災害・災害看護の定義と役割 2. 災害サイクルに応じた災害看護 3. 災害の種類別・対象別による被害・疾患の特徴 4. こころのケア
4 5	4	災害看護演習	1. 災害発生時に必要な技術 ○技術確認(1年次に学習した内容) 心肺蘇生・気道確保 ○新たな学習 トリアージ・応急処置・搬送総合演習
6 7	4	看護の国際協力	1. 国際的組織・赤十字活動 2. 海外における看護活動
8	1	単位認定試験	1. 単位認定試験
3. 教科書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院		
4. 参考書			
5. 成績評価方法	筆記試験		
6. 備考(学生へのメッセージ等)	災害看護は演習があります。事前学習をして臨み、積極的に学習しましょう。		

授業科目	看護研究		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	3学年 全期
1. 科目のねらい・目標			
1. 看護研究の意義、プロセス、文献検索、倫理的配慮等の基礎的な知識について理解する。 2. 基準に沿って文献のクリティークを体験する。 3. ケーススタディへの取り組みをとおして、看護研究の進め方や文献の活用、文章の書き方を学ぶ。 4. 自分の看護を考察しケーススタディをまとめ、発表する。また、他者のケーススタディを講評する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1	2	看護研究の基礎知識	1. 看護研究の意義 2. 論文の種類と構成要素 3. 看護研究の種類 4. 看護研究のプロセス
2	2	看護研究における倫理	1. 研究活動における倫理的問題 2. 研究者としての責任と姿勢 3. 倫理的配慮の実際
3 4	4	看護研究における文献 レビュー～文献検索と クリティーク～	1. 文献検索の意義 2. 文献検索の方法と実際 3. クリティークの意義と基準 4. 文献のクリティーク【演習】
5 6	4	看護研究の進め方	1. 調査研究 1) データ収集方法の種類と特徴 2) 質問紙作成とデータ分析 2. ケーススタディ 1) ケーススタディの進め方 2) ケーススタディのまとめ方 3. 研究計画書の意義と作成
7	2	看護研究の発表	1. 学術集会・学術会議への演題応募 2. 発表方法とマナー 3. 論文投稿
8 ～ 15	16	看護研究発表の実際	1. 看護研究発表会 1) 看護研究の発表、質疑応答 2) 講評
3. 教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 はじめてでも迷わない！看護のためのケーススタディ		
4. 参考書	新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社		
5. 成績評価方法	評価表に基づき評価（評価項目…クリティーク、研究論文、発表、講評ほか）		
6. 備考（準備する物など）	指導を受けながらケーススタディをまとめます。USBメモリーを準備してください。 発表にむけ、適宜オリエンテーションを行います（授業時間に含まない）。		

授業科目	看護の統合と実践		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	3学年 全期
1. 科目のねらい・目標			
1. 臨床で遭遇するさまざまな場面に、看護師としてどう対応するのか考える過程をとおして、臨床判断や優先順位の決定、多重課題に対応する力を養う。 2. チームナースングや看護師長の役割と業務について学習する。 3. 既習知識・技術と実習経験を統合し、多様な状況や患者の状態に応じて看護を実践する能力を養う。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1	2	事例に応じた臨床判断	1. 3事例への対応－優先順位の決定と情報の伝達－ 2. 容態が増悪した事例の経過の判断
2	2	よくある場面の対応	1. 与薬場面での予測と対応 2. 複数受持ち・情報の伝達・予定の変更（報告・相談） 3. 多重課題への対応
3 4	4	チームナースング	1. 4人の患者の看護計画と業務分担 2. チームメンバーとの協働
5	2	看護師長の役割と業務	1. 看護師長の役割と業務
6 7	4	多重課題への対応と優先順位の判断と決定	1. 2事例の疾患の理解・看護診断・看護目標・看護計画の立案 2. 2事例の受け持ち当日看護計画および行動計画の組立
8	2	誤薬防止シミュレーション演習	1. 演習オリエンテーション 2. 経口与薬の誤薬防止シミュレーション 3. グループ討議・発表
9 ～ 14	12	卒業時に求められる知識・技術・態度の統合	1. 統合演習オリエンテーション（事例および課題技術提示） 2. 看護技術の復習（知識の確認） 3. 看護技術および患者対応演習
15	2	単位認定試験	1. 筆記試験 2. 統合試験「ステーション課題への対応」 (卒業時に求められる知識・技術・態度の評価)
3. 教科書	その都度、必要な資料は配布する		
4. 参考書	各自、必要な図書や文献を活用する（持っているテキストすべてが参考書です）		
5. 成績評価方法	課題提出、筆記試験、技術試験		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	個人・グループ学習で授業を進めます。今までに習得した知識・技術・態度すべてを統合しながら主体的に学習しましょう。2月後半には、与えられた課題にどう対応していくのか統合試験を予定しています。		